

《 特別賞 北海道教育委員会教育長賞 》

まばたきの鈍い月曜ほの碧いミントキャンディーのざらつきが増す

北海道旭川西高等学校 3年 斉藤 亜美

【講評】独自の感じ方で歌をまとめた力が評価され、特別賞の受賞となった。ミントのさわやかな感じを「ざらつき」と舌の感覚で捉えたのも光った。普段から感性豊かに物事を捉えている作者なのだろう、無理なく自由とうたっているのが良い点だ。

《 特別賞 北海道立文学館賞 》

全身がククッと感じたそのしゅんかんアジがつれたよ岩内の海

北広島市立緑ヶ丘小学校 4年 三浦 花音

【講評】読む者も思わず釣りをしているような感じになる、臨場感の豊かな作品である。特に「ククッと」という所が巧い。全身に魚の動きまでもが伝わり、何とも言えない喜びが込み上げるとうたう。生き生きとうたっている所が特に優れている。

《 特別賞 北海道歌人会賞 》

思い出の生家も今は他人の家おもかげ残す庭の紫陽花

立命館慶祥中学校 2年 石田 隼太郎

【講評】感情を抑えて「紫陽花」に生家の思い出を重ねた。優れたうたい方だ。調べも整っている。歌が、良く構成されている。言葉も慎重に選んでいる。巧みな言葉の言い回しも光る。落ち着いてしっかりうたっている完成度の高い優れた作品である。

《 特別賞 北海道新聞社賞 》

北竜の迷路遊んで家路着きおかえりと揺れる鉢植えひまわり

北海道教育大学附属札幌中学校 1年 都筑 小和

【講評】北竜町のひまわり畑の迷路を辿り十分に遊んだ。さあ帰ろう、と上の句をまとめた。弾んだ調子の上の句、それに続く下の句は、家で揺れている鉢植えのひまわり。対照させる巧みさも持っている。「おかえりと揺れる」が特に良い表現だ。

《 優秀賞 》

小学一～三年生の部

アスパラのながいぼうしがとんがってるかぞくみんなでぼりぼりたべた

富良野市立麓郷小学校 1年 鈴木 梨央

【講評】家族でアスパラを食べた時の印象を、子どもらしい言葉でまとめた。家族で食べている場面が生き生きと目に浮かぶ。長い帽子の様な「アスパラ」が「とんがって」いて、食べると「ぼりぼり」と音がする。楽しい家族だんらんの時間がうたわれている。

りょうりつくりおさらをあらうおとうさんわたしのうちはろくごうのやど

富良野市立麓郷小学校 1年 高津愛葉音

【講評】料理を作り、後始末で皿洗いをする父親を子どもながら、暖かい目で見ている。親しみを込めてお父さんや、いま住んでいる故里の「麓郷」の私の家をうたっている。素直な気持ちを込めているのが良い。一年生とは思えない優れた歌である。

小学四～六年生の部

木にのこる一枚の葉が落ちるころだれかも恋に落ちるだろう

札幌市立発寒東小学校 6年 三浦 佳恋

【講評】初々しい恋の歌。初恋の思いだろう。木の葉が最後にハラリと落ちる晩秋は、誰でもが人恋しい気持ちになる。私も恋に落ちているのだが、皆も恋に落ちてるに違いない。そんな恋の気持ちを歌にまとめた所が優れている。

御盆明け母の当直付き合ってトイレが怖い夜の病院

札幌市立円山小学校 5年 ベネデックアシュリー

【講評】お母さんが病院に勤めていて、お盆明けの当直の夜をいっしょに泊まった。でも、大きい病院の夜のトイレは怖い。「当直付き合って」という所が、お母さんとの親密度がうかがわれて微笑ましい。生活が、生き生きとうたわれていて良い作品だ。

中学生の部

一人読む『人間失格』友達はいないんじゃないじゃなくてつukらないだけ

小樽市立菁園中学校 2年 鈴木 莉子

【講評】思春期には多くの少年少女が、今でも読む太宰治の『人間失格』を一人静かに読んでいる。この本の内容もさることながら、私は敢えて友だちを作ろうとは思わない。親や周りは友の事を聞いてくるが「つukらないだけ」とうたう。個性的な歌である。

八月の友と見た海忘れない風にふかれる麦わら帽子

札幌市立中央中学校 2年 安藤 妃由

【講評】 幻想的なメルヘンのような歌で、場面の切り取り方が巧い。友だちと見た、あの夏の海、風に吹かれて友だちの麦わら帽子が揺れていた。ひと夏の思い出を巧くまとめた歌である。「麦わら帽子」がこの歌を効果的にしている。

高校生の部

清明の高空天色 (あまいろ) 悠々と大海知らぬ札幌鷗

札幌聖心女子学院高等学校 1年 瀧田 小麦

【講評】 カモメ、それも都会のカモメを歌って特徴がある。個性的なよみ振りの歌。「札幌鷗」は大海を知らない、とうたう。さすがに毎年、入賞するだけの力は今年も発揮された。早朝、澄み切った空を悠然と舞っている都会のカモメをうたったのである。

真白な極寒の朝早起きでぼくらのために道あける母

北星学園大学附属高等学校 1年 光野 太陽

【講評】 「極寒の朝」は北海道の冬の朝だ。そんな寒い早朝、母は僕たちのために懸命に除雪をしてくれる。そんな母には感謝の思いで一杯だ。普段は感謝の言葉など掛けないのだが、こんな寒い朝は、思わず頭が下がる、と素直な気持ちをうたったのだ。

《 佳作 》

小学一～三年生の部

友だちと一緒に花火たのしいな高くあがってはくりよくあるね

釧路市立武佐小学校 3年 齊藤ゆめの

【講評】 友達と花火大会へ行った時に見た打ち上げ花火について思ったまま「高くあがってはくりよくあるね」と会話体で素直に表現しているところが良い。友達と一緒に花火を楽しんでいる様子が伝わってくる。

友だちとせんこう花火たのしいなパチパチ光って二人で「きれい。」

釧路市立武佐小学校 3年 西原 里咲

【講評】 これは線香花火を友達と楽しんでいる作品である。「パチパチ光って」と線香花火の様子を具体的に表現したところが生きている。友達と同時に「きれい」と叫んだのであろう。女の子らしい表現がほほえましい。

ひさびさにあえてうれしいおじいちゃんつぎあうときまでがんばるからね

千歳市立千歳小学校 3年 中野 南

【講評】 久しぶりに会ったのであるが、お爺ちゃんとの別れぎわに「つぎあうときまでがんばるからね」と言ったのである。何を頑張るか分ったらもっと良かったと思うが、孫を迎えたお爺ちゃんの喜んでいる姿が浮かんでくる。

だいすきなおおばあちゃんてんごくでめぎすはモデルおうえんしてね

北海道教育大学附属札幌小学校 1年 高倉小桃愛

【講評】 大好きだったおお婆ちゃんに対する子どもらしい表現が良い。亡くなったおお婆ちゃんにモデルを目指している自分を見守ってほしいというのである。「おうえんしてね」という語り掛けが利いている。

小学四～六年生の部

本の中表紙めくると最後まで続きが気になるまほうにかかる

旭川市立末広北小学校 6年 須藤 遥

【講評】 他の人があまり気づかない、本を読んだことを短歌に表現したところがこの作品の優れたところである。本を読み始めると続きが気になって落ち着かない様子を「まほうにかかる」と自分で発見した言葉で表現したところが良い。

おじいさんもぎたてトマト持ってくる大きく赤い太陽の味

鷹栖町立鷹栖小学校 4年 佐藤 優花

【講評】 お爺さんが育てたトマトを題材にしてよくまとめている。もぎたての大きなトマトを「太陽の味」と捉えたところが高学年らしく優れている。お爺さんが心を込めて育てたトマトだという気持ちも含まれているのではなかろうか。

太陽が私のはだをこがしてく体に刻む夏の思い出

浜中町立霧多布小学校 6年 南 知里

【講評】 夏の日に焼けた自分の肌を「体に刻む夏の思い出」と捉えたところが高学年らしい優れた表現である。「夏の思い出」にはもっと深い意味があるのであろう。それが出るとさらに優れた作品になったのではなかろうか。

開かないととうめい人間になったみたいジャンプシアピール自動ドア前

北海道教育大学附属旭川小学校 5年 上野 未悠

【講評】自動ドアの前に立ったのに開かない。背の低い子どもだから開かないのだろうか。とジャンプしてアピールしたのである。「とうめい人間になったみたい」は面白い表現でこの作品を生き生きとしたものになっている。

中学生の部

玄関で父はいつも待っているちょっとうざくてちょっとうれしい

岩見沢市立北村中学校 2年 今井 花菜

【講評】クラブ活動の帰りなのであろうか。夜遅く帰ると必ず父親が心配して待っているのである。年頃の女の子を心配する父親に対して「ちょっとうざくてちょっとうれしい」と中学生らしい普段の言葉遣いで表現しているところが良い。

心のきず自分一人じゃなおせないかわりにぼくがサビオをはるよ

伊達市立光陵中学校 2年 秋田 飛翔

【講評】友達の悩みに対しての反応であろう。「心のきず」は「自分一人じゃなおせない」からと友達の傷を癒すために「かわりにぼくがサビオをはるよ」と軽くユーモラスに表現して心を和ませようとしているところが良い。

語彙がない二重表現誤字脱字日本語ですか僕の言語は

函館市立的場中学校 2年 川瀬 雄也

【講評】「語彙」という難しい言葉を遣いさらに「二重表現誤字脱字」と漢字を並べているが、意外にリズム感があり面白い。最近の中学生の乱れた言葉遣いに対し「日本語ですか僕の言語は」と批判も見える。

花火咲く浴衣と心揺れる裾後ろ姿に君を感じる

函館市立港中学校 3年 越尾 眞織

【講評】花火大会の夜のことであろうか。淡い恋心を感じる作品である。「花火咲く」という表現も工夫しているが、恋に揺れる心と浴衣の裾が揺れることにたとえたところは心憎い。浴衣の後ろ姿に君を感じるという中学生らしい表現が生きている。

高校生の部

帰り道君の笑顔に見送られブレーキ3回またねのサイン

北海道小樽工業高等学校 3年 三橋 怜

【講評】デートの帰りなのであろうか。高校生らしい恋の歌である。君の笑顔に見送られと清々しい表現が生きている。別れの合図の「ブレーキ3回またねのサイン」がこの作品を生き生きしたものにしている。

一粒の涙の奥の感情は海の底より深き青色

北海道おといねっぶ美術工芸高等学校 3年 大村 彩華

【講評】この作品も高校生らしい複雑な感情を一首によくまとめている。心の中を表現するのは非常に難しいものであるが、「涙の奥の感情」を「海の底より深き青色」と色で表現したところは心憎い。

切りすぎた前髪君がほめるから短いまんまのトレードマーク

北海道富良野高等学校 1年 大村 咲

【講評】たまたま「切りすぎた前髪」を、心に思っている人に褒められたからこれからもこのままで居ようと表現したところが面白い。それを「トレードマーク」にしようと考えたところも個性的で新鮮な作品になっている。

歓声と熱きライトに照らされてひととき我は恍惚のソリスト

北海道龍谷学園双葉高等学校 2年 野場 彩歌

【講評】「ソリスト」とは“独奏者”または“独唱者”のことで、今自分はソリストとして舞台の上で「歓声と熱きライトに照らされて」脚光を浴びているのである。「我は恍惚のソリスト」とは大人顔負けの表現である。

《 入選 》

小学一～三年生の部

夏の夜(よ)にオレンジのメロン食べるなり笑顔うきでるこの田中家に

池田町立利別小学校 3年 田中 志穂

【講評】家族団らんのひととき、皆でメロンを食べているのである。話も弾んで笑顔がいっぱい、楽しさいっぱいの様子が目に浮かんでくる。「田中家」は何人家族なのであろうか。人数が分るともっと良かったと思う。

ふうけいがみどりいっぱいきれいだなそれも青ぞらゆめいっぱいさ

江別市立角山小学校 3年 及川 花実

【講評】目の前の光景を「みどりいっぱいきれいだな」と小学生らしい素直な言葉で表現している。青い空に「ゆめいっぱいさ」と感じたのも子どもらしくて良い。

夏休みでっかいふねでたのしいな友だちとあいたんけんしたよ

釧路市立武佐小学校 3年 佐々木空雅

【講評】夏休みに船に乗ったのであろう。「でっかいふね」だけでなくどこから乗ったのか、船の名前などが分るともっと良かったと思う。「友だちとあいたんけんしたよ」は子どもらしくて良い表現である。

暑い日にルスツリゾートたのしいながれるプールひきずられるよ

釧路市立武佐小学校 3年 宍戸 希菜

【講評】夏休みにルスツリゾートへ行った時の作品である。水が流れる大きなプールなのであろう。その流れに引きずられる様子を表現して面白い。子どもらしく楽しさあふれる作品になっている。

やきとりやカステラ食べておいしいな天(そら)は五こ食べてはらいっぱいだ

釧路市立武佐小学校 3年 田村 天

【講評】これも子どもらしい素直な表現で微笑ましい。「天は五こ食べて」と具体的な数が見えていて良い。お祭りの屋台なのであろうか。どこで食べたのか場所がはっきりしていたらもっと良かったと思う。

夏休みあばしりかんごくたのしいなうごく人形あちこちにいた

釧路市立武佐小学校 3年 鶴嘴 莉久

【講評】この作品は「あばしりかんごく」と具体的な場所が見えていて読む者にもよく理解できる。見学者に分かりやすく説明するための、動く人形があちこちに居たことを言いたかったのである。

おまつりできんぎょすくいがたのしいなとれないけれどまたやりたいな

釧路市立武佐小学校 3年 吉岡 花

【講評】お祭りでの金魚すくいのことを作品にしているが、「とれないけれどまたやりたいな」と子どもらしい素直な表現が生きている。そこにその子らしさが出ていて特徴のある作品となるのである。

夏休みおまつりってふねのった友だちとあいたんけんしたぞ

釧路市立武佐小学校 3年 渡邊 悠

【講評】夏休みにお祭りがああり、友達と船に乗って探検したのである。「友だちとあいたんけんしたぞ」は子どもらしい表現であるが、やや具体性に欠ける。やはり具体的な場所や船の名前が分るともっと良かったと思う。

ガラスふきまわしてでかくコップをつくるおとうさんいつもはんそでたんぱん

富良野市立麓郷小学校 1年 河野 智克

【講評】これはガラス工房での様子を作品化して特徴がある。ガラスのコップを作るお父さんを「いつもはんそでたんぱん」と表現したところが優れている。目で見たことを表すことで読む側が想像しやすいのである。

おとうさんといっしょにトラクターではたけしごと

いっばいしゃべったべやべやばかり

富良野市立麓郷小学校 1年 由利 杏奈

【講評】この作品も具体的なトラクターでの畑仕事を作品にしている。「いっばいしゃべったべやべやばかり」は会話の様子が伝わってくる。字余りなので「いっしょに」は省いた方が良かったと思う。

さくらんぼまっかなビーだまみたいだなおじいちゃんにもたべてほしいな

富良野市立麓郷小学校 1年 横井 泰河

【講評】赤いサクランボを「まっかなビーだまみたいだな」と表現したところが良い。「おじいちゃんにもたべてほしいな」とやさしい子どもらしい表現が生きている。お爺ちゃんがだいすきなのだろう。

さくらんぼふたごでなかよしくつついてるもったいなからたべるのやめよう

富良野市立麓郷小学校 1年 渡辺 理心

【講評】これもサクランボのことを作品にしている。このサクランボは仲良く二つくつついたサクランボで「なかよしくつついてる」ので「たべるのやめよう」と子どもらしい表現が生きている。

はらぺこの窓に雪どけようてい山かぶりつきたい大きなほしいも

北海道教育大学附属札幌小学校 3年 都筑 暖和

【講評】お腹が空いている時に見た羊蹄山を、大きな干し芋にたとえたところが面白い。雪解けの羊蹄山だからなおさら大きな干し芋に見えたのであろう。「かぶりつきたい」という表現が生きている。

天ざるにおろし天ぷらとろろそばじいじのそばやは一〇〇ぴきまつり

室蘭市立知利別小学校 2年 宮西 駿斗

【講評】蕎麦の種類をリズムよく並べ歯切れが良くて面白い。おじいさんの蕎麦屋はちようど「一〇〇ぴきまつり」だったのであろうがどんな祭りなのかかわかるともっと良かったと思う。

夏まつり暗くなったらその時に花火が上がりみんなも上がる

室蘭市立八丁平小学校 3年 新庄 颯太

【講評】夏祭りの花火大会なのであろう。「暗くなったらその時に」は、まさにその通り素直に表現したのであろうが、もう少し工夫できるかもしれない。「みんなも上がる」は皆の気持ちが盛り上がることなのであろうが、やや説明不足か。

夏まつりたこやきうまい！うますぎる！！ぜんちゃん 30 オレ 45 こ

利尻富士町立鴛泊小学校 3年 西島 一樹

【講評】夏祭りの屋台なのであろう。たこ焼きがおいしくて、友達は 30 個、自分は 45 個食べたのである。具体的な数が示されて様子が想像できる。たこ焼きのおいしさが伝わってくる。

小学四～六年生の部

炎天下歩きつかれてひとやすみ見上げてみれば空ラムネ色

旭川市立末広北小学校 6年 三浦 愛和

【講評】暑い中、長く歩いて疲れたのだろう。汗をふきながら空を見上げれば、ラムネ色の空。のどもかわいていて、ラムネを飲みたくなったのであろう。素直な表現が良い。

お父さんおぼん休みでひげのぼしビールかたてにソファでごろん

札幌市立鴻城小学校 4年 三橋 凜花

【講評】お盆休みのお父さんののんびりとした様子をよく見て、細かく表現されている。いつもはいそがしいのでお盆の休みはのんびりして欲しいという、あたたかい気持ちも感じられる。「ひげのぼしビールかたてにソファでごろん」は面白く、よく効いた表現になった。

ペルセウス見上げた空に流れ星キラリ一筋すつと消えゆく

札幌市立栄南小学校 5年 中野 蒼空

【講評】ペルセウス座を見ていると、流れ星があらわれてすつと消えていったのだろう。見たままにうたっている。下の句の「キラリ一筋すつと消えゆく」は、とても良い表

現である。

地平線燃える夕日がおちていく真夏の夜空に灯る赤月

札幌市立栄南小学校 6年 法邑 弥奈

【講評】燃える夕日が地平線に落ちると、ほどなく反対の空に赤い月が出てきたのだろう。夕方から夜になっていく空のようすをきちんととていねいにうたっていて良い歌である。

飛びこみ台キラキラ輝く水面が私をプールへ吸いこんでいく

札幌市立札幌北小学校 6年 門田 夕依

【講評】作者はとびこみ台に立っているのだろう。水面は輝いて美しいが、ためらっている自分を、水の中に吸いこんでいくとうたっている。歌の題材も良い。また、「私をプールへ吸いこんでいく」の表現もたいへん優れている。

夏祭り胸がドキドキ止まんないとなりにいる子ぼくの好きな子

札幌市立澄川南小学校 6年 阿部 豊

【講評】夏祭りに誘い合っ出てきたのか、偶然会ったのか、どちらとも取れるが、「胸がドキドキ止まんない」のは「となりにいる子ぼくの好きな子」だからである。作者の心の動きがよくわかる素直な歌になっている。

ふえの音なみだとあせがまじりあい息がきれても走り続ける

札幌市立発寒東小学校 6年 小室 舞香

【講評】運動会か、記録会を題材にしているのだろう。笛の音と共にスタートしたが、緊張で汗と涙が出てくるのだ。息が切れてもまだ走り続ける懸命さが、よく表現されている。

道ばたに赤い葉たくさん落ちている離れた心どこかにないかな

札幌市立発寒東小学校 6年 庄野 涼那

【講評】道ばたに落ちている無数の赤い葉の中に、もしかして自分のように「離れた心」の落ち葉はないかと探している。落ち葉の中に「離れた心」を求めるという設定がよく、いろいろと連想させるものがある。また、結句の「どこかにないかな」と日常の言葉を使っているのも良い。

市場たんけんわくわくドキドキとまらない早起きだけのおどろきスポット

札幌市立円山小学校 5年 谷口 紫野

【講評】朝市を初めて見学したのだろう。見るものすべてが珍しく、「わくわくドキドキ

とまらない」と素直に気持ちを表現している。また「早起きだけのおどろきスポット」と下の句は上手にまとめて、良い歌になっている。

はやすぎるちょっと待ってよ流れ星私の願いは星の数ほど

札幌市立円山小学校 5年 堀田あかり

【講評】流れ星に願いをかけたいが、あまりの速さととまどっているのだろう。「はやすぎるちょっと待ってよ」が、日常の会話のまま表現されていて効果的である。「私の願いは星の数ほど」が皮肉で、おもしろい歌になっている。

まっくらな地球にねころび星を観る赤い火星とさそりの心臓

札幌市立円山小学校 6年 奥山 航輔

【講評】ねころんでいる場所を「地球」と表現しているのが、まず工夫している。さそり座の中の、アンタレスの輝きを「さそりの心臓」とあらわしてたいへん優れた表現になっている。結句の「赤い火星とさそりの心臓」があざやかな赤を思わせ、良い歌になった。

墓参り帰りの海でカニ見つけじじとたわむる積丹ブルー

札幌市立円山小学校 6年 田尻 菜翔

【講評】墓参りのあと、積丹の海でおじいさんとカニとりをしたのだろう。たくさんの歌材を上手にまとめて一首にしているのが良い。結句に「積丹ブルー」を持ってきて、積丹の海のきれいなブルーを想像させて終わっている点が優れていて良い歌になった。

金メダル目ざして今は走るだけいつかわたしのむねでかがやけ

積丹町立日司小学校 4年 三上 琳加

【講評】陸上競技をしているのだろうか。リオのオリンピックを見て、もっともっと速くなりたいと思い、そのためには今はひたすら走る。いつかは金メダルを取るという強い決意が表れている歌になっている。願いがかなうことを祈りたい。

五りょうかくどこまで続く桜道坂を登ると桜のじゅうたん

中札内村立中札内小学校 4年 小熊 駿太

【講評】桜の時季の函館の五稜郭公園をうたっている。桜がたくさん咲いている様子を「どこまで続く桜道」と表現し、おどろいたことがよく伝わる。さらに「坂を登ると桜のじゅうたん」と丁寧うたっている。短歌の基本となる“写生”がよくできている歌だ。

満天の流星群の徒競走ぬかせよぬかせボルトの記録

北海道教育大学附属札幌小学校 4年 亀山 寧々

【講評】流星群の「徒競走」という発想が新鮮でおもしろい。ボルトの記録を抜かせというのもとても楽しい。夜空をながめて、このような発想で夢を広げている歌で、とてもすばらしい。

中学生の部

雨上がり長ぐつの下に小さい空少女は空を飛んでいるよう

石狩市立樽川中学校 2年 加藤 優奈

【講評】雨上がりの水たまりの上に少女が立っていて、空が映っているのだろう。その様子を「少女は空を飛んでいるよう」と、個性的に表現している。この下の句が、よく効いているが、上の句の説明も適切であり、よい歌である。

ペン一本すぐにえがける私の分身最近なんだかさびしそう

置戸町立置戸中学校 2年 長澤 悠

【講評】ペン一本ですぐになんでも描くことができる、私の分身ともいうべき「ペン」が「最近なんだかさびしそう」に見えるということか。自己の悩みを物の姿を借りて表して、良い設定の歌である。

ハードルを跳べずに帰るその道で明日こそはと背中押す風

札幌市立栄中学校 2年 中村 結

【講評】ハードルを跳べずに帰る作者、その背中を「明日こそは」と風が押してくれる。さわやかな歌にできあがった。「明日こそはと背中押す風」が、生きた下の句になっている。

かわいたら蛇口をひねってカウントダウン十秒独占あの子の隣

札幌市立札幌中学校 3年 吾妻 花怜

【講評】好きな子の隣で、水を飲む時は、蛇口をひねってカウントダウンを十秒間と決めているのであろう。それでも「十秒独占あの子の隣」と満足しているのだ。またこの「十秒独占あの子の隣」が、生きた下の句になっている。

恋すると人はきれいになるのならきっと私はティラースウィフト

札幌市立札幌中学校 3年 剣持 陽菜

【講評】恋すると人はきれいになると言われている。もし、私が恋をしてきれいになるのなら、ティラースウィフトのように美しく、歌も上手な人になりたいと願っている。自由に発想して、短歌としてもまとまっていて楽しい作品になった。

風鈴が夏の思い出語りだす空を見ながら私は聞き手

札幌市立札幌中学校 3年 菅井柚衣子

【講評】上の句の風鈴の擬人化が生きていて、引きつけられる。風鈴が語り手、自分が聞き手という設定も良い。夏の終りを感じさせ、余情あふれる、魅力ある歌である。

黒板の隅にかいた「キミが好き」短いチョークと私の心

札幌市立月寒中学校 2年 角田 杏

【講評】作者の心の動きがよく伝わってくる歌である。「黒板の隅」という目立たない場所に書いた言葉。それも短いチョークだった。相手がきちんと想ってくれるだろうかという不安が「短いチョークと私の心」という表現になり、とても良い歌になっている。

アスパラの収穫中に吹いてくるさわやかな風夏のおとずれ

札幌市立平岡中学校 2年 中安さくら

【講評】汗を流してアスパラを収穫していると、さわやかな風に夏のおとずれを感じるというのだ。吹く風に季節のかわり目を感じているところを、素直に短歌にまとめて、さわやかな歌になっている。

枝拾うぶどう畑に寄りそいぬ幸せはこぶ四つ葉見つけて

札幌市立平岡中学校 2年 坂東 那菜

【講評】ぶどう畑の枝を切りそろえる^{きんてい}剪定で落ちた枝を拾っているのだろう。単調な仕事であるが、四つ葉のクローバーに元気をもたらしたのを「幸せはこぶ四つ葉見つけて」と、上手に表現している。

夏の日の思い出全て笑みにかえ最後のしめは打ち上げ花火

豊頃町立豊頃中学校 3年 脇坂まりん

【講評】上の句の「夏の日の思い出全て笑みにかえ」は良い表現で作者の明るく前向きな性格がよく出ている。下の句もうまくまとめている。「しめは打ち上げ花火」という表現も全体にマッチしている。

猛暑の日歌って弾いてさげんだら汗の分だけ曲になつてく

ニセコ町立ニセコ中学校 2年 齊藤凜太郎

【講評】背景はよくわからないが、猛暑の中、ギターを弾いて歌っていたのだろう。「汗の分だけ曲になつてく」はたいへん優れた下の句である。実感がこもっていて魅力的である。

色あせたモノクロの町君がいるただそれだけでカラフルな町

別海町立別海中央中学校 2年 三栖 汐音

【講評】素直な表現で気持ちがよく伝わってきて、共感の持てる歌である。ひとつひとつの言葉がよく考えられていて、リズム感があり良い歌になった。題材をよく整理してまとめた点も良い。

思い出の代弁をする待ち受けのこの夏だけのスペシャルショット

北海道龍谷学園双葉中学校 2年 松山 優月

【講評】待ち受けの画面が思い出の代弁をしていて、それが「この夏だけのスペシャルショット」だと歌っている。言葉をよく選んで表現していると感じた。難しい題材によく取り組んで短歌にまとめている。

淡い恋君と二人で観覧車味なきガムを噛み締めたまま

立命館慶祥中学校 3年 中野 日和

【講評】デートの時の作者の緊張感がよく伝わってくる。「味なきガムを噛み締めたまま」は具体的で良い表現になっている。読んでいてほほえましくなる歌である。

高校生の部

凜として黄金色に立つ君は背高のっぼの夏の貴婦人

旭川龍谷学園旭川龍谷高等学校 1年 村山 健

【講評】夏に咲くヒマワリの花を歌ったのだろう。「凜として」「貴婦人」という言葉から、思っている人がいるのかもしれない。言葉がよく吟味されている。「背高のっぼの夏の貴婦人」に会いたくなるような、良い下の句になった。

そばにいる時間が私の宝物いつか思いを伝えられたら

北海道旭川工業高等学校 2年 安藤 允智

【講評】好きな人への思いを素直に歌っている。下の句は切ない願いとなっている。「私の宝物」を積み重ねて、思いが伝わるようにエールを送りたくなる歌である。

家族とはいつも隣にいてくれる血が繋がってなくてもいい

北海道小樽工業高等学校 2年 鈴木 陽太

【講評】この作者は家族というものについて、深く考える機会があったのだろう。その自分の結論を短歌にまとめあげた。家族とは血の繋がりではなく、「いつも隣にいてくれる」ものだというこの結論は、短歌として読むと、とても説得力がある。

夕焼けで伸びる二つの黒い影父より長く超えた身長

北海道小樽工業高等学校 3年 庄木 翔

【講評】夕焼けを背に受けながら父と歩いている。その影を見て、身長が父を超えたのに気づく。この時の様子をていねいに歌い上げている。作者の思いなど、色々想像する余地があって余韻のある作品である。

手の中の志望理由書見つめたらモノクロ世界色つき始め

北海道小樽工業高等学校 3年 平野 大成

【講評】高校三年生にとって重要な進路を決定するべき時を迎えての歌。志望理由書を見て「モノクロの世界色つき始め」とうたった。工夫した表現である。その中に希望や勇気を見出したのであろう。

街の空狭くなりしといふけれどビルを仰ぎて天涯を知り

北海道札幌北高等学校 3年 村田 夏子

【講評】街の空が狭くなってきたと言われるが、ビルを仰ぎ見て空の限界や、空のはてを知ることがあるという意か。「ビルを仰ぎて天涯を知り」は、いろいろ考えさせられる深い表現である。

ライオンのあの風貌でネコ科なら私はきっとナマケモノ科な

北海道滝上高等学校 3年 小林 礼奈

【講評】ふと思いついたことをうたっていておもしろい短歌になった。ライオンがネコ科は意外であるが、「私」は日常の行動から考えると「きっとナマケモノ科な」と言っている。「ナマケモノ科な」の表現がおもしろい。

親と子で顔も性格も違うけど恋する相手は似ているものね

北海道津別高等学校 2年 菊池 凧紗

【講評】自分や兄弟と、親との比較であろうか。そのあたりがはっきりするとより深い歌になったと思う。顔や性格が違って、結局は親子の好みは似るものだということがうたっている。目のつけどころがおもしろい歌である。

浴衣きた君の手引いて走り出す人群れかき分け高鳴る花火

北海道富良野高等学校 1年 川上 尚人

【講評】花火大会が始まったようなので君の手を引いて走り出した時の様子が、よく伝わってくる。「人群れかき分け高鳴る花火」は、よくまとめている。「高鳴る花火」は作者の鼓動でもあるのだろう。

夕立の向こうに君と同じ傘人違いでも心が躍る

北海道富良野高等学校 1年 森川 雪絵

【講評】上の句「夕立の向こうに君と同じ傘」は端的な表現で感心した。歌の意味がよく伝わる。たとえ、「人違いでも心が躍る」のである。言葉も吟味されていて、よく気持ちの伝わる作品である。

いつ来るの？キミの返信待っている画面を見つめ今日も夜ふかし

北海道富良野高等学校 1年 矢吹 歩美

【講評】キミの返信をイライラしながら待っている作者。ずっと待ち受け画面を見つめ続けていて、夜ふかしになってしまった。スマートフォン世代の現代の高校生の様子がよく伝わってくる作品である。

朝六時「おはよう」の声のかわりにはまだあたたかいお弁当箱

北海道富良野高等学校 3年 佐藤 麻衣

【講評】起きて部屋に行くときすでにあたたかいお弁当箱が、まるで「おはよう」のあいさつのように置いてあったということだろう。この時の作者の気持ちが歌の中から伝わってくるようである。ほんのりと温かい気持ちにさせられる歌である。

墨の香の漂う部室で条幅の白い世界に筆舞い踊る

北海道龍谷学園双葉高等学校 2年 佐野 史果

【講評】「墨の香」と「条幅の白い世界」の中、舞い踊るように筆を運ぶ作者の姿が浮かぶ。墨の香も漂ってくるようである。静と動の世界をよく捉えてうたいあげた、優れた作品である。

夏の葉がせわしく風に揺らされて進路に迷う僕と重なる

北海道龍谷学園双葉高等学校 2年 吉田 侑生

【講評】進路に迷っている自分の姿を風に揺れる夏の葉に託して上手にまとめている。「せわしく風に揺らされて」は「夏の葉」であり、自分の心境でもある。生きた言葉になっている。

穫れたての生ウニ食べて噛みしめる故郷の海よ豊かな恵みよ

北海道龍谷学園双葉高等学校 3年 中山 涼未

【講評】生ウニを食べて故郷の海の豊かな恵みに感動している姿が伝わる。上の句がよくできていて、生ウニのおいしさが伝わってくるようだ。故郷への誇りと感謝が感じられる歌である。